

今日の福音書の物語は2部に分かれている。今日は後半の物語を読んでゆく。
この物語はイエスの裁判の間、ペテロが弟子である事を打ち消した事から始まる。
ヨハネの福音書には、炭火の側でペテロが弟子であるかが問われる。
ペテロは「私はそんな者ではない」と答える (ヨハネ18:17)。
ペテロは3回も弟子であることを否定する。ペテロは神から離れる。

ペテロがどのように感じたのか想像できるだろうか？
帝国の占領下で教師を取り去られ、ペテロは恐れを感じているに違いないと私は想像する。
不公平な体制と自分自身の力のなさで、ペテロは怒りを感じているに違いない。
そして試される時がやってきたが、ペテロはしくじった。言い訳はできない。
ペテロは自分自身の審判に破れ、そのことを悟った。
おんどりが3回鳴いた時、ペテロは破れた事を知った。

怒りと恐怖になることがどんなことであるのか、そして落伍したある人に会った。
ある日、コーヒー店テーブルの向かい側に座っている彼が私に告げた。「私は殺人者だ」。
私たちは屋外の堅い金属椅子に座っていた。野外にいると少し寒さを感じる気候であった。
ともあれ私たちが屋外に出ていたのは、彼が煙草を吸うためであった。
その時、私たちは博物館の展示会のために共に作業をしていた。
この展示会は保護観察下の先住民の若者によって編成されていた。
彼と私はこれら若者たちのアドバイザーであった。

この人は好意的な仕事仲間であるのは知っていた。彼は賢明で安定しており、にっこりと
笑う人であった。今は笑っていなかった。私は淡々として彼の過去を尋ねた。
私のどんな特定の白人友達にもする尋ね方で、私は尋ねた。
どのように彼の人生が、(私と)違っていたかを考えていなかった。
私たちは軽い気持ちで意見交換をしていると思ったが、彼は私に真実を述べた。

彼は驚くべき正直さで私に答えた。話の一部分をいつもの安定した口調で私に告げた。
それは共に仕上げたすべての展示を案内する口調であった。

彼は多くの兄弟と飲酒や薬物問題を多く抱える粗野な家庭で育った。
青年であった彼は、怒り、酒を飲み、バーで人を刺した。私に真実を告げた。

人を殺すことはどんな感じであったのか。許されることでなく、刺した人との関連もなく、不正な体制と人種差別の中で育った背景でもなかった。

今、より多様な社会の私たちは、寄宿制学校で起こった家族の衝撃をよく知っている。世代間に及ぼす精神的外傷の影響について多くを学んでいる。今は。

しかし、激怒、恐れ、アルコールによって青年は他人を殺害し、一瞬、血で染まった。彼は裁判にかけられ有罪となった。

彼はどのように変化したのか語らなかった。更生した旅路を語らなかった。

会ったその人はいつ、どのように、堅実な人となることを学んだのか、私は分からない。彼の目と顎のラインに浮かぶ苦痛から、自分が行ったことに後悔しているのを止めなかったと確信する。彼は人の命を奪ったのだ。誤った。許されない。事実のみである。

その事実はその時で終わらなかった。私が知っているその人について述べよう。

何年かの後に、私は彼に会った。私たちは共に、若い人々の群れを任されていた。

その若者たちはすでに薬物、アルコール、刑法の問題を抱えていた。

羊をより緑の多い牧草地へ導くように、クラスを作り、地域社会が彼らを特別支援をする制度が設けられた。しかしこの若者の群れは、これらは危険な現場かもしれないのに、常にこれらの馴染みのある所へ戻ろうとしていた。彼は忍耐強く、これらの危険な現場で起こりうる光景を彼らに伝えた。

この若いグループのすべての人に好感を持ち尊重したのだが、大変反抗的であった。

しかしこの人は、その群れに尽くした。彼らを光と命へ導くために奔走した。

一日に何度も、一時間に何度も。彼らには愛を注ぐ必要があった。

彼は自分の人生の真理を彼らに伝えた。常に正直で、常に光、命、希望へと招く。

彼は私にも尽くしてくれた。何を後悔し、悔い改めることができるか、それを理解できるように私を導いた。正直さ。私が見たのは、深い悲しみを認識し、生きてきた人であった。彼は地域社会への贈り物でもあった。人種差別、植民地主義、虐待、不当性によって壊された地域社会を養い（羊を養いなさい、今日の福音書）、愛を注いだ。

若者の根底にある傷に耳を傾けることを教えてくれた。

更生されていない人と歩むことはどのようなことであったかを示してくれた。

そして今、回想してみると、私が知っている彼は、私にとっても優しくかった。

20代の私は、大学教育を受け、ハイヒールを履き、恵まれた友達を持つ、無知な白人少女であった。私は完全に西洋人の家族と文化を引き継いだ産物である。

今でもそうである。私はまだ学ぶことがたくさんある。

私が和解を学ぶ目標に到達しているかは、ticky box（折り畳み式の箱、比喩表現）を調べるのだが、そう思う時はいつも、私は新しい学びに向かっている。

昨夜、Rev. Dr. Ray Aldrich（VSTの先住民研究室所長）の講義に参加した。

Aldrich氏は、私たちの（先住民との）関係は、今にも到達しようとしているのではないと注意を促した。友が私の人生の時間を歩んで行くように、関係とは共に歩むことである。

今日の午後、Kerry Baisley氏がこの聖十字に来て下さる。他の失敗例を話して下さい。聖公会も含む諸教会は、先住民の子供たちのための教育と世話の手伝いに招かれていた。神の愛される人々の群れを世話するためである。これが審判であったなら、私たちの弟子たる職務を試みた時間は失敗であった。何も学ばなかったと推察できた。

どのように養われ尽くされることが、何度も必要とされたのに気が付くのが遅かった。

真実を述べるなら、私たち教会は、帝国占領下の一端に加わっていた。

私たちは寄与して、人種差別と不公平な体制を作り上げた。

今すべての私の文化的規範は、訂正すべきことは不正を正すことであると示唆している。

昨夜、Ray氏は、私たちが真実に耳を傾け、恥を知る必要があると示唆した。

聞きなさい、聞きなさい、聞くことである。真実と和解に向かうどのような道であっても、共に必要とされる旅路になるだろう。この旅路で、文化によって形成されている私のような人々は、その文化が正しい解答と正義を望むのだ。私の知らないすべての真実、私の誤っているすべての箇所、そして不公平さに荷担していること、これらに気が付くようにしなければならない。

この旅路（今日の福音書）で、私はペテロの弟子たる身分に慰めを得ている。

ペテロはあれほど愚かな質問を3回もしたのに。あれほどイエスがペテロをとがめたのに。ペテロは弟子であることをすべて否定したのに。それにもかかわらず、今日の福音書の物語では、ペテロは炭火の横に立っている。そして死からよみがえったイエスは尋ねる、『あなたは、わたしを愛しますか』（ヨハネ21:15)。

ペテロは言う、『私があなただを愛していることは、あなたがお存じです』。

イエスは言われる、『私の小羊を養いなさい』。

イエスは再び言われる、『ヨハネの子シモン、あなたは、わたしを愛しますか』。

ペテロは言う、『はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがお存じです』。

イエスは言われる、『私の羊を養いなさい』。

三度目もイエスは言われた、『ヨハネの子シモン、あなたは、わたしを愛しますか』。
ペテロは言った、『主よ、あなたは何もかもご存じです。私があなを愛していることを、
あなたはよく知っておられます』。

イエスは言われる、『私の羊を養いなさい』。

この物語を聞いて、もう一つの物語を思い出す。

冷たい金属の椅子の上、特有の香りがするタバコの煙が空中を漂うなかで聞こえてきた。

羊の世話をする羊飼いのように、自分の地域社会の世話をする人から。

地域社会を養う物語。審判のたびに見出だされた真実の物語—そして敗北したこと。

そして二度目の機会を作る働きと和解の物語。

今日、私たちの教会の歴史のなかで、私たちは試され、敗北した時代のことをさらに学ぶ。

この歴史を聞くことを勧める。その間、イエスの質問を心にとめてほしい。

イエスは尋ねられる、『あなたは、わたしを愛しますか』。

私たちが正直であることを覚えてほしい。

そして光、命、希望への招待を聞くのだ。

(文責長澤猛)